

# 山形県長井市発の「競技用けん玉」を世界へ



**土地柄課題** 競技用けん玉 生産日本一の長井市

緑豊かな山々に囲まれる山形県では、古くからこけしや将棋の駒などの木地小物が数多く作られてきました。中でも県南部に位置する長井市は豊富な木材を生かし、「競技用けん玉」の生産量日本一を誇ります。その立役者と言えるのが木地玩具・民芸品製造会社として昭和48年に創業した有限会社山形工房です。同社は、国内に三社しかない「日本けん玉」を生産する工房の一つとなっています。「けん玉」という昔ながらの民芸品や子ども向けの玩具としてのイメージがありますが、平成20年頃からは、海外の10〜20代の若者から多くの問い合わせをいただくようになったと聞いています。当時、東京で公務員として働いていた梅津さんは、海外でのけん玉流行の兆しを感じ、実家である山形へ。祖父の代から続く(有)山形工房を受け継ぎました。



有限会社山形工房 代表取締役社長 梅津雄治さん

**取組の経緯** おしゃれでかっこいい 海外でのけん玉ブーム

(有)山形工房では、かねてより海外10数カ国に代理店・販売店を設け、けん玉普及に向けた営業活動を行っていました。そんな中、欧州や北米他諸外国にて、スケートボードなどのエクストリームスポーツを好む若者を中心に、「けん玉」への注目の高まりを感じ始めたそうです。「海外の有名なけん玉チームがインターネットにアップしていた動画に衝撃を受け、同時に大きな可能性を感じました。アクロバティックな技

普及を図りたいとのこと。長井市から世界へ、けん玉旋風は始まったばかりです。

**事業の今これから** 令和元年12月現在

平成27年10月、(有)山形工房は山形県出展団としてミラノ国際博覧会での出展を行っていました。会場は子どもから大人まで大勢のお客様で賑わい、けん玉体験や技のデモンストレーションなどを実施。お客様からは「高齢者の認知症予防に良さそう」という声も。平成29年には、競技用けん玉より血が大きく軽量で、初心者や高齢者向けである福祉けん玉「大晴」を発売。その翌年には、プロや海外の方向けに技の成功率向上のため改良を施した新モデル「大空RESHADE」を発売。その他「けん玉アプリ」のサービスや東京オリンピックエンブレムのけん玉を発売するなど「国籍を問わず、幅広い世代に楽しんでいただきたい」という想いとともに更なる表現や活動の場を広げています。



職人の手で一つ一つ丁寧に仕上げられます



会社概要

有限会社 山形工房

住所 山形県長井市寺泉6493-2

電話 0238-84-6062

ホームページ http://www.kendama.co.jp

**創意** 国産・手作りの逸品 山形の技術を世界へ

の数々に、私自身が抱いていたけん玉の使い方を覆されましたね」と梅津さん。当時は国内向けの商品を海外へ販売していましたが、海外向け製品への需要を感じ、工場長を務める鈴木良一さんと共に、日本けん玉協会認定の競技用けん玉「大空」の開発が始まりました。

約40年に渡り競技用けん玉を作ってきた(有)山形工房ですが、国内の規格とアメリカで受け入れられる規格は異なり、その基準にマッチしたけん玉を作ることが目標とされました。そこで、地元の西置賜ふるさと森林組合、有限会社佐藤製材所と連携し、

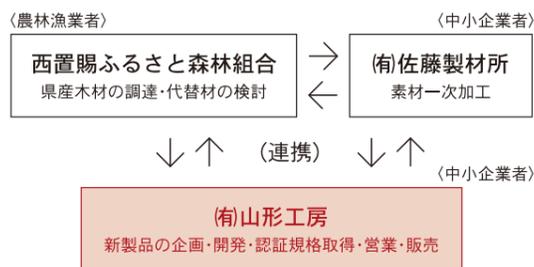
**取組の成果** 国内にも広がる 新しいけん玉カルチャー

国産ブナと桜材を確保。「100%国産、100%手作り」をモットーとした生産体制が確立されました。「山形の繊細な物づくりの素晴らしさを世界に発信しなくてはという義務感も感じていました」と梅津さん。塗料の材質を変えたり、英語版の取扱説明書をつけたりといった工夫の、北米の安全認証「CPSC」にも合格し、信頼性の向上にも努めたそうです。さらに、海外では、おしゃれなグッズ・高級品として捉えられていたけん玉の市場調査を重ね、海外でも好まれるデザインを考案したことが広く受け入れられたポイントではと振り返ります。

**今後の課題・展望** こだわりの品質は生む けん玉の可能性

競技用けん玉を使った技は三千種以上と言われており、プレイヤーの増加に伴い技の種類も増え続けているそう。この技の多くは、けん玉職人が織りなす精密な構造により成せるものとのこと。「多くの技ができるよう、制度と品質にこだわって一つ一つ丁寧に仕上げています」と梅津さん。今後も、国際的な展示会等への積極的な出店や、幅広い分野の方とタイアップした国内外への

事業実施体制 (助成期間 H21.11~H22.10)



出来上がった競技用けん玉「大空」は、海外に浸透し始めた「エクストリームけん玉」の一端を担い、国内でもじわじわと流行の兆しを見せ始めています。(有)山形工房の働きかけにより、東京原宿のアップルショップでの展示販売や若者に人気のブランドとのコラボレーション商品の企画など、従来のけん玉では考えられなかったような展開が見られるほどに。梅津さんは「国内製品の良さが海外に伝わることで、国内での需要増にもつながると思っています」と話します。その他にも、国内のけん玉プレイヤーとタッグを組んでプロモーション動画を作るなど「かっこいいけん玉」を世界へ発信し続けています。こうして競技用けん玉